

# 令和3年度事業報告書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

学校法人多摩美術大学

東京都世田谷区上野毛3-15-34

# 目 次

## I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神	..... 2 頁
2. 沿革	..... 2 頁
3. 設置学校等	..... 4 頁
4. 目的・教育目標	..... 4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率	..... 6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況	..... 7 頁
7. 役員に関する情報	..... 8 頁
8. 教職員に関する情報	..... 8 頁
9. 学習環境に関する情報	..... 9 頁

## II. 事業の概要

1. 2021（令和3）年度 中長期計画への事業の対応状況	.....10 頁
2. 各事務部署の取組み	.....13 頁

## III. 2021（令和3）年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算	.....26 頁
2. 事業活動収支計算	.....27 頁
3. 貸借対照表	.....28 頁
4. 財務比率	.....29 頁
5. 財産目録	.....30 頁

# I. 学校法人の概要

## 1. 建学の理念・精神

本学の淵源は、1929（昭和 4）年設立の帝国美術学校にある。1935（昭和 10）年、帝国美術学校校長北吟吉は、帝国美術学校を専門学校に昇格させるため手狭な吉祥寺から広大な東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛に校地移転を計画。移転昇格派と残留派で分裂のやむなきに至るが、北吟吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄をはじめとする大半の教員と、図案科を中心とする学生らが移転。官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、校名新たに多摩帝国美術学校が生まれる。

以来「自由と意力」の理念の下、常に芸術の先端的な動向を切り拓き我が国の芸術文化の進展に寄与してきたのである。専門分野における高度な学理や技能のみならず、国際的な視野と幅広い教養をも身につけた人材の育成に努め、社会に新たな息吹をもたらす優れた芸術家・デザイナー並びに教育者・研究者を数多く輩出してきたことは、本学の誇りとするところである。

## 2. 沿革

- |              |  |
|--------------|--|
| 1935(昭和 10)年 | 多摩帝国美術学校を 5 年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設  |
| 1937(昭和 12)年 | 財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可   |
| 1947(昭和 22)年 | 専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。   |
| 1950(昭和 25)年 | 旧制の多摩造形芸術専門学校に 3 年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設  |
| 1951(昭和 26)年 | 学校法人に組織変更  |
| 1953(昭和 28)年 | 学制改革にともない、4 年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科)   |
| 1954(昭和 29)年 | 川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2 年制 映画科、演技科)を設置   |
| 1955(昭和 30)年 | 多摩美術短期大学を廃止  |
| 1964(昭和 39)年 | 大学院美術研究科修士課程を設置  |
| 1969(昭和 44)年 | 芸術学科、建築科の 2 科増設の認可   |
| 1971(昭和 46)年 | 年次計画により八王子移転を開始。建築科開講  |
| 1974(昭和 49)年 | 美術学部の八王子移転完了   |
| 1981(昭和 56)年 | 芸術学科を開講し、美術学部は 5 科となる。   |
| 1982(昭和 57)年 | 多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開  |
| 1989(平成元)年   | 美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科) 開設  |
| 1992(平成 4)年  | 多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増   |
| 1995(平成 7)年  | 大学院美術研究科昼夜開講制開始  |
| 1998(平成 10)年 | 美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学 |

	科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設
1999(平成 11)年	美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
2000(平成 12)年	附属美術館を多摩センターへ移転
2001(平成 13)年	大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
2002(平成 14)年	大学院美術研究科工芸専攻開設
2005(平成 17)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
2006(平成 18)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
2007(平成 19)年	大学院美術研究科デザイン専攻定員増
2008(平成 20)年	美術学部生産デザイン学科定員増
2012(平成 24)年	大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
2014(平成 26)年	造形表現学部募集停止 美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設
2016(平成 28)年	大学院美術研究科絵画専攻日本画夜間主コース、油画夜間主コース、デザイン専攻コミュニケーションデザイン研究領域、芸術学専攻身体表現研究領域募集停止
2018(平成 30)年	大学院美術研究科デザイン専攻統合デザイン研究領域、演劇舞踊専攻を開設

### 3. 設置学校等

(学) 多摩美術大学 理事長 青柳 正規

多摩美術大学 学 長 建畠 哲

#### 【所在地】

上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34

八王子キャンパス：東京都八王子市鎌水 2-1723

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	美術
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学、演劇舞踊
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
	統合デザイン	
演劇舞踊デザイン		

### 4. 目的・教育目標

#### [大学の目的・教育目標]

大学の目的として、学則の第一章（総則）の第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を養成する」としている。

また、大学院学則の第三条に、「芸術の技術と理論において新たな価値を創出し、社会を刷新することのできる人材を養成する」としている。

教育目標として、専門職業人、独立した作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻 1 専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、1964年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、1998年に芸術学専攻、2002年には工芸専攻を開設して、1研究科5専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会の現実に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによって達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の2つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫かれた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。

また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

## 5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

## 【大学院】

2021(令和3)年5月1日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画	日本画	43	86	88	102.3%
			油画 版画				
		彫刻		10	20	20	100.0%
		工芸	陶	9	18	17	94.4%
			ガラス 金属				
		デザイン	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン 統合デザイン	62	124	161	129.8%
	芸術学	芸術学	5	10	4	40.0%	
演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	8	16	6	37.5%		
小計		137	274	296	108.0%		
	博士後期課程	美術		5	15	20	133.3%
合計				142	289	316	109.3%

## 【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子	美術	絵画	日本画	195	780	(168)	109.6%
			油画 版画			(544) (143)	
		彫刻		30	120	142	118.3%
		工芸	陶	60	240	248	103.3%
			ガラス 金属				
		グラフィックデザイン		184	736	786	106.8%
		生産デザイン	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	416	457 (271) (186)	109.9%
		環境デザイン		80	320	356	111.3%
情報デザイン	メディア芸術 情報デザイン	122	488	589	120.7%		
上野毛	美術	芸術		40	160	197	123.1%
		統合デザイン		120	480	526	109.6%
		演劇舞踊デザイン		80	320	303	94.7%
合計				1,015	4,060	4,459	109.8%

( )内は専攻内数

総計				1,157	4,349	4,775	109.8%
----	--	--	--	-------	-------	-------	--------

## 6. 学部学科・専攻別進路状況

2022(令和4)年3月31日現在

大学院	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他※
絵画	40 (29)	15 (12)	15 (12)	3 (1)	22 (16)
彫刻	11 (4)	5 (1)	5 (1)	0 (0)	6 (3)
工芸	9 (6)	5 (3)	3 (1)	2 (1)	4 (4)
デザイン	80 (54)	35 (23)	35 (23)	5 (4)	40 (27)
芸術学	2 (1)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)
演劇舞踊	3 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
美術(後期課程)	7 (4)	4 (2)	4 (2)	0 (0)	3 (2)
<b>合計</b>	<b>152 (100)</b>	<b>67 (43)</b>	<b>64 (40)</b>	<b>10 (6)</b>	<b>78 (54)</b>
修了者に対する割合			42.1%	6.6%	51.3%
<b>就職内定率(就職者÷就職希望者)</b>			<b>95.5%</b>		

美術学部	卒業者	就職希望者	就職者	進学者	その他※
絵画	204 (151)	92 (70)	69 (56)	55 (39)	80 (56)
日本画	41 (32)	23 (17)	14 (11)	12 (10)	15 (11)
油画	130 (91)	58 (43)	44 (35)	34 (22)	52 (34)
版画	33 (28)	11 (10)	11 (10)	9 (7)	13 (11)
彫刻	31 (13)	8 (4)	8 (4)	12 (5)	11 (4)
工芸	58 (42)	37 (29)	27 (22)	14 (8)	17 (12)
グラフィック	182 (147)	121 (97)	112 (88)	7 (4)	63 (55)
生産	107 (77)	82 (59)	79 (58)	7 (7)	21 (12)
プロダクト	66 (41)	52 (33)	49 (32)	2 (2)	15 (7)
テキスタイル	41 (36)	30 (26)	30 (26)	5 (5)	6 (5)
環境	81 (43)	48 (28)	48 (28)	7 (2)	26 (13)
情報	129 (94)	74 (58)	52 (42)	7 (3)	70 (49)
メディア芸術	68 (45)	35 (27)	26 (18)	4 (2)	38 (25)
情報デザイン	61 (49)	39 (31)	26 (24)	3 (1)	32 (24)
芸術学	39 (29)	19 (16)	17 (15)	8 (6)	14 (8)
統合	111 (73)	79 (54)	68 (48)	8 (2)	35 (23)
演劇舞踊	67 (59)	36 (36)	34 (34)	1 (1)	32 (24)
演劇舞踊	41 (33)	13 (13)	13 (13)	1 (1)	27 (19)
劇場美術デザイン	26 (26)	23 (23)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
<b>合計</b>	<b>1009 (728)</b>	<b>596 (451)</b>	<b>514 (395)</b>	<b>126 (77)</b>	<b>369 (256)</b>
卒業者に対する割合			50.9%	12.5%	36.6%
<b>就職内定率(就職者÷就職希望者)</b>			<b>86.2%</b>		( )内は女子学生内数

※その他には、作家(希望者を含む)、留学(準備者を含む)、帰国(留学生)等を含む。



## 7. 役員に関する情報

2021(令和3)年7月1日現在

役員(13名)		評議員(22名) (五十音順)	
理事 10名		評議員	青柳 正規
理事長	青柳 正規	評議員	飛鳥田 一朗
理事(学長)	建畠 哲	評議員	安次富 隆
理事	飛鳥田 一朗	評議員	安楽 康彦
理事	川上 典李子	評議員	井上 雅之
理事	小泉 俊己	評議員	大貫 卓也
理事	田淵 諭	評議員	岡村 桂三郎
理事	常盤 豊	評議員	楠 房子
理事	深澤 直人	評議員	久保田 晃弘
理事	渡邊 敏	評議員	小泉 俊己
理事	和田 達也	評議員	高橋 正
		評議員	忠政 重信
監事 3名		評議員	建畠 哲
監事	荒川 直	評議員	田淵 諭
監事	中元 文徳	評議員	深澤 直人
監事	森 三千郎	評議員	古谷 博子
【参考】 理事定数 7~10名 監事定数 2~4名 評議員定数 21~23名		評議員	松浦 弘明
		評議員	水上 嘉久
		評議員	宮 いつき
		評議員	諸川 春樹
		評議員	山下 恒彦
		評議員	和田 達也

## 8. 教職員に関する情報

2021(令和3)年5月1日現在

教員数 (本務者)		教員数 (兼務者)	
学長	1名(0名)		
教授	107名(24名)	客員教授	69名(21名)
准教授	16名(3名)		
講師	14名(5名)	非常勤講師	434名(148名)
学部助手	43名(24名)		
大学院助手	4名(3名)		
合計	185名(59名)	合計	503名(169名)

( )内は女性教員内数

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	185名(106名)
-----	------------

## 9. 学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分 東急田園都市線「二子玉川駅」下車、徒歩 12 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、 講堂、図書館、A棟、B棟、演劇舞踊スタジオ

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鎌水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8 分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、図書館、メディアセンター、レクチャーホール、アートテーク、グリーンホール、体育館、T A U ホール、工作センター、第二工作センター、学生クラブ棟
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生寮「多摩美オリーブ館」（東京都町田市）</li> <li>・ 大学附属美術館（東京都多摩市）</li> <li>・ 富士山麓セミナーハウス（山梨県）</li> <li>・ 奈良古美術セミナーハウス（奈良県）</li> <li>・ 情報発信拠点「アキバタマビ 21」（東京都千代田区）</li> <li>・ 情報発信拠点「T U B (Tama Art University Bureau)」（東京都港区）</li> </ul>
--

[附置研究所] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術人類学研究所（八王子キャンパス）</li> </ul>
---

## II. 事業の概要

### 1. 2021（令和3）年度 中長期計画への事業の対応状況

#### **（1）教育及び研究体制の整備と再点検のための措置**

- ①大学基準協会の認証評価に指摘されている改善事項への取組（3年以内）
- ②STEAM教育の一翼を担うことを念頭においた教育体制の整備（5年以内）
- ③研究論文の増加のための施策 目標 50件（5年以内）
- ④クラウドファンディングなどの持続的な資金の獲得体制による研究活動の推進（5年以内）
- ⑤評価制度の導入（3～5年以内）

- ・大学基準協会の認証評価に指摘されている改善事項への取組（3年以内）  
大学院の改善課題について、大学院担当資格基準の制定、修了要件の見直し、評価基準の制定、指導計画の制定、コースワークの充実等の対応を行った。
- ・研究論文の増加のための施策 目標 50件（5年以内）  
外部業者による科研費応募支援サービスに加え、職員によるアドバイスによって、採択率は昨年度を上回った。

#### **（2）学生受け入れ態勢の強化のための措置**

- ①キャリアセンターの充実による就職率のアップ  
（就職内定率 87%以上、2023年度までに90%以上）（3～5年以内）
- ②安定的な入学者獲得に向けた入試制度の検討、見直し（3～5年以内）
- ③学生相談等の充実（3～5年以内）

- ・安定的な入学者獲得に向けた入試制度の検討、見直し（3～5年以内）  
他大学との一般選抜における日程を再調整し、国公立と併願しやすい選抜方法を再考、入試プロジェクトチーム等を通じて制度・実施方法を再検討した。
- ・学生相談等の充実（3～5年以内）  
欠席過多等ケアを必要とする学生への研究室連携等による早期発見と支援（退学者対策）を行った。

#### **（3）国際的な美術家、デザイナー、教育者育成の環境整備のための措置**

- ①英語を主としたネイティブスピーカーの採用（3～5年以内）
- ②外国語に接する機会を増やす環境づくり（3～5年以内）

- ・外国語に接する機会を増やす環境づくり（3～5年以内）  
学生の留学や語学学習に対するモチベーションアップを図るイベントを開催した。

#### **（4）国際交流の推進・制度化のための措置**

- ①海外大学への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ等の増加（5年以内）
- ②新規海外協定校の増加（3～5年以内）
- ③学生が留学しやすくなる制度設計（3～5年以内）

#### ④国際交流センターのサポート体制の充実（3～5 年以内）

- ・国際交流センターのサポート体制の充実(3～5 年以内)  
留学生の母国語を使用し、本人だけでなく保護者へ直接連絡をとるサポートを実施した。  
Twitter で定期的に情報を発信し、本学の国際交流についてアピールした。  
コロナ禍により新規入国できない外国人留学生に対して、メールや CampusSquare だけでなく、zoom・LINE・WeChat を活用した情報提供・問い合わせ対応を実施した。  
留学ハンドブックを Web 公開した。

#### (5) 専門性と総合性の融合を目指した改組による教育改革のための措置

- ①カリキュラムの見直し（5 年以内）
- ②学科の改組検討（5 年以内）
- ③独立大学院の検討（3 年以内）

- ・カリキュラムの見直し（5 年以内）  
教育向上部会において「アクションプラン 2025」として、教育改革による教育の質的向上について検討を進めている。

#### (6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備のための措置

- ①上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携（5～7 年以内）
- ②八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行（5～10 年以内）
- ③共通施設の充実と利用しやすさの推進（3～5 年以内）
- ④学生寮建設後の運営体制の確立と充実（3～5 年以内）

- ・上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携(5～7 年以内)  
マスタースケジュールを策定し、必要な施設機能を分担配置し、検討を進めている。
- ・八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行(5～10 年以内)  
石彫、木彫、諸材料、図書館の外壁修繕工事を実施した。
- ・共通施設の充実と利用しやすさの推進（3～5 年以内）  
中庭のテーブル用パラソル、図書館棟照明の LED 化など共有エリアの整備を行った。
- ・学生寮建設後の運営体制の確立と充実(3～5 年以内)  
運営委託会社、寮長・寮母との話し合いの場を継続的に設けている。

#### (7) 社会・地域連携の拡大のための措置

- ①具体的な産官学等の研究成果による地域の活性化（3～5 年以内）
- ②自治体、地域の自治などの課題解決（3～5 年以内）
- ③社会人の学び直しに対応した教育の提供（3～5 年以内）
- ④発表・創作活動の活性化（3～5 年以内）
- ⑤事業法人の設立

- ・事業法人の設立

「株式会社 TAMABI A&D」の設立が理事会で承認された。

#### **(8) 美術大学の教育及び研究内容の社会伝達と浸透のための措置**

①21 世紀の美大イメージの確立 (3～5 年以内)

②教育研究内容の積極的な PR による存在意義の浸透及びブランディングの確立 (3～5 年以内)

- ・21 世紀の美大イメージの確立 (3～5 年以内)

「TAMABI NEWS」に「世界に存在感のある大学となる」、「持続可能な社会に向けての取り組み」という視点を織り込み、「東京 2020NIPPON プログラム」、「持続可能な社会の実現」、「世界基準を超える」の3テーマで発行した。

- ・教育研究内容の積極的な PR による存在意義の浸透及びブランディングの確立 (3～5 年以内)

“まじわる・うみだす・ひらく”をコンセプトに、の提供、学生作品の展示・発信を通してデザインとアートの持つ創造性と美意識を社会とつなぐ場として4月にTUB (Tama Art University Bureau) を六本木東京ミッドタウン内デザインHUBにオープン。アキバタマビ21と合わせて21世紀美大のイメージの発信・確立の場として活用していく。

#### **(9) 管理運営の強化のための措置**

①事務組織の見直しによる新しい体制の確立 (1～3 年以内)

②魅力ある職場づくりによる人材の確保 (3～5 年以内)

③定期的な異動、評価制度の見直し、専門職などの人事制度の確立 (5 年以内)

④各委員会組織の権限・位置等の再点検 (1～3 年以内)

⑤財務の継続的な安定と、収入の基盤強化

(資産運用収入、寄付金収入の100%増) (5 年以内)

⑥予算制度の見直しとPDCA サイクルの確立 (5 年以内)

⑦危機管理体制の確立 (1～3 年以内)

⑧情報共有化に向けた学内体制の検討 (3～5 年以内)

⑨規程の再点検 (3～5 年以内)

- ・事務組織の見直しによる新しい体制の確立(1～3 年以内)

段階的に進めることとし、第二段階の見直しを行った。

- ・魅力ある職場づくりによる人材の確保(3～5 年以内)

「人事・福利厚生」検討プロジェクト及び「新卒職員採用」検討プロジェクト活動が実施され、魅力ある職場に向け提案、改善が行われた。

- ・財務の継続的な安定と、収入の基盤強化(5 年以内)

ホームページへの寄付金システム導入の効果により寄付金が大きく増加した。

## 2. 各事務部署の取組み

### (1) 教育・研究運営面の推進計画

#### ◆教務部

##### 【教務課】

- ①専門性と総合性の融合を目指した教育改革—教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取組み

対面授業とオンライン授業を効果的に運用し、コロナ禍における教育方法の改善に努めた。

教育課程の体系化、授業運営の実質化及び改善、単位制度の実質化、厳格な成績評価への取組みを推進した。

また、多様化する学生への対応を強化した。

- ②第3期認証評価への対応（大学基準協会へ点検・評価報告書を提出）—教育及び研究体制の整備と再点検

内部質保証の起点となる三つの方針（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受入れ方針）に基づき、学位プログラムの適切な運用、教育プロセスや学習成果の検証、その検証結果を活用した学位プログラムの改善・向上を実施した。

第2期認証評価で課題とされた大学院の改善については、大学院担当資格基準の制定、修了要件の見直し、評価基準の制定、指導計画の制定、コースワークの充実等、概ねの対応を行い学位プログラムの向上に努めた。

- ③大学院改革

2022年度入学者から修了要件を変更した。共通選択科目について各専攻開講によるオープン科目については非常勤講師の担当制度等を制定した。大学院担当教員の担当資格基準を新たに制定した。

- ④リベラルアーツ改革

2020年10月よりリベラルアーツプロジェクトチームを発足させ、2015年12月に策定した教養教育カリキュラム設計書、2017年に実施した共通教育科目のシェイプアップを見直し、本学らしいリベラルアーツを再設計し、2022年4月より共通教育をリベラルアーツセンターとして組織改編した。

##### 【入試課】

- ①入学者選抜の制度を再検討して志願者増につなげる（継続）

他大学との一般選抜における日程を再調整し、国公立と併願しやすい選抜方法を再考、入試プロジェクトチーム等を通じて制度・実施方法を再検討するなどした結果、一般選抜においては、110.5%の志願者増を達成した。

しかし、大学院博士前期課程（修士）選抜と外国人留学生選抜においては、コロナウイルス感染症対策による外国人の入国制限により志願者が約20%減少した。

一般選抜の志願者増は、入試制度の見直しもあるが他の要因も考えられ入試結果の調査分析を実施したい。

- ②入学者選抜方法を解りやすく案内する

各選抜試験の出願資格が複雑化し、同一選抜試験において各学科の試験内容の多様化に

より「学生募集要項」の記載内容も増えて分り難くなっており、出願から受験票発行におけるこれまでの不備や問い合わせに多かった内容を学生募集要項に反映させるなど主担当部署と編集方法の見直しを行った。

③特別選抜B、大学院選抜を中心に運営方法を再検討する（継続）

年度当初より各選抜試験への職員協力を各部署に行ったことにより、人員配置やその他入試に係る業務を大学全体の業務として捉え、一般選抜と同様に組織的に実施できた。

入試業務に、オンラインアプリ（formrun）を利用することにより手続の簡素化を図った。

④新型コロナウイルスなど発生時の入試体制・運営方法の見直し

前年度の経験を基に、各選抜試験の準備から突発的事象まで臨機応変に対応することができた。

【国際交流センター】

①新規海外協定校の増加

Cumulus Roma 2021 New Members Fairに参加し、本学の紹介プレゼンテーションを行った。世界各国の高等教育機関に対し、本学の強みを周知することができた。

②提携校への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ増加

2022年度より2年ぶりに交換留学生受入再開を確定させた。

パシフィックリムオンラインにより、初めてアートセンターカレッジオブデザイン（米国）の学生とのオンラインによる共同ワークショップを実施した。

③学生が留学しやすくなる制度設計

コロナ禍において、国内・国外情勢を考慮しながら、派遣条件を再検討し、学生6名を本学海外協定校に派遣した。

④サポート体制の充実

学生の母国語（特に中国語、韓国語）を使用し、学生本人だけでなく保護者へ直接連絡をとることで、留学生への手厚いサポートを実施した。

Twitterで定期的に情報を発信し、本学の国際交流についてアピールした。

⑤外国語に接する機会を増やす環境づくり

共通教育（現リベラルアーツセンター）教員と協力し、学生の留学や語学学習に対するモチベーションアップを図るイベントを開催した。

International Exchange Reportを発行し、本学学生が英語で本学の情報を入手できるように配布した。

【研究支援課】

①学内研究活動の活性化と情報公開促進

学内共同研究やひらめき☆ときめきサイエンスで実施期間延長などもあったが、TUBにおける「すてるデザイン」の実施もあり産学共同研究の推進につながった。

民間助成金等公募情報のサイトを改変し公開することにより、学内での研究活動の活性化と情報公開が促進され効果も出始めている。

②競争的資金獲得のための支援強化

外部業者による科研費応募支援サービスに加え、職員によるアドバイスによって、採択

率は昨年度を上回った。

業務効率化を図るため、Excel入力からシステム（科研費Pro）を導入した。

③公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）と不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく体制整備の促進

以下について実施した。

- ・不正使用の事前防止のための体制整備
- ・教員と学生への研究倫理教育（オンライン開催）
- ・検収体制の整備
- ・前年度内部監査の指摘事項改善
- ・研究推進会議の定例化による問題点の検討
- ・コンプライアンス研修会、研究倫理研修会の開催（オンライン開催）
- ・研究費に関するルールの周知徹底、事例集の整備

◆学生部

【学生課・奨学課】 ※2021年6月に学生課から分離し奨学課が発足

①奨学金等に関する見直し

国の高等教育修学支援新制度への対応はできているが、手続きの見直しについては2023年度を目標に検討途中である。

本学奨学金・減免制度の見直しについて、2023年度に向けて検討を進めている。

②奨学金等に関する体制変更に伴う整備

奨学金等業務の業務委託業者へ転換（アウトソーシング）については、下期は職員と業務委託業者が連携する体制が定着し、職員との関係性を良い状態で継続できていた。

窓口での相談・紹介については、課員が広範囲での奨学金や授業料減免についての知識を増やし、学生に向けて丁寧な案内ができていた。

③学生支援アンケートの結果を踏まえた新型コロナウイルス禍における学生支援の取り組み

- ・経済的な支援は本学独自のもの（奨学金）により実施できた。
- ・コロナ禍で学生相談件数が急増したが、相談枠の増枠やオンラインにより実施することで学生支援を強化した。
- ・課外活動や学生交流については、感染対策を呼びかけながら学生とも協働することで下期にはかなり活動の幅を広げることができた。

④学生の住環境に配慮した支援

- ・学生寮については、寮長・寮母との協議による運営を目指した。
- ・2021年度の学生寮の募集ではキャンセル等はあったが、1年を通した運営の流れや特徴を把握することができた。
- ・優先寮を希望する場合にも外部委託業者の協力のもと丁寧に案内した。
- ・上野毛キャンパス学生への住環境への配慮は、業者と協議して円滑に機能している。

⑤多様化する学生に対する支援及び学生相談等の充実

- ・合理的配慮検討会議を中心に、配慮内容の検討や学内関係部署・研究室との共有を行った。
- ・欠席過多学生への支援は、「退学に繋がらなかった」「欠席過多が解消された」等の報



告が確認されており上手く機能している。

- ・退学者の分析は、該当の全学科とヒアリングを実施し、細やかな日頃の対応により退学回避につなげたい各学科の意向を確認できた。
- ・学生相談は概ね希望する学生への情報提供や教職員への対応はできており充実している。

#### 【キャリアセンター】

##### ①就職支援対策の推進強化

就職内定率（就職者/就職希望者）87%以上を目標としていたが、コロナ禍において多くの授業がオンラインとなり、就職情報もオンライン・SNS等をフル活用し情報提供を行った結果目標をクリアできた。

##### ②教員との連携強化

キャリア支援委員会の各科教員の出席率はほぼ100%であり、毎回積極的な意見交換が行われている。

##### ③低学年からのキャリア(就職)に対する意識向上

オンラインでのガイダンスが主流となったが、今まで授業と重なり出られないという学生にとっては参加しやすくなった。

##### ④外国人留学生への進路・就職支援配慮を要する学生進路・就職支援

外国人留学生対象のガイダンスについては、効果的に実施することができた。配慮を要する学生支援については、学生相談室との定期ミーティングで情報共有を行った。

##### ⑤コロナ禍における既卒者（未内定者）の支援

クラウドサービスを活用し既卒者相談をオンラインにて受付可能とした。

#### ◆附属図書館

##### ①新しい図書館像の検討

利用実態調査や外部利用者への対応については、コロナ禍の限られた中で最大限の対応と検討を進めた。上野毛キャンパスの写真コレクションは順調に進み、蔵書構築を補強するための選書委員会設置の準備を整えた。

##### ②サービス

コロナ禍でできる範囲のガイダンスを実施し、そのためのウェブコンテンツを作成・公開した。また、展示による所蔵資料のPRは順調に続き、学科推薦図書を更新や授業単位でのガイダンス対応など連携に力を入れた。

##### ③発信と協働・連携

ガイダンスをはじめとしたウェブコンテンツの更新や改善などを進めた。利用者の意見を反映しフィードバックすることを心がけた。言語と美術コレクションの目録作成はほぼ完成し、他部署との連携、学術ポータルとの連携について次年度への足がかりを整えた。

##### ④運営・管理

八王子キャンパス図書館の大規模改修工事は終了し、上野毛キャンパス図書館の外部倉庫への預け入れ準備に入った。

## ◆附属美術館

### ①展覧会開催（開催期間、入館者数）

- ・「現代日本画DNA展」 2021年4月3日(土)～6月20日(日)、2,133名
- ・「寺田コレクション展1」 2021年7月10日(土)～9月20日(月)、1,182名
- ・「寺田コレクション展2」 2021年10月2日(土)～11月21日(日)、1,326名
- ・「海老塚教授退職記念展」 2021年12月4日(土)～1月17日(月)、1,411名
- ・「多摩美術大学博士課程展 2022」 2022年3月2日(水)～3月15日(火)、597名

### ②博物館実習

コロナ禍において他館での実習中止を受け大幅な人数増となった。リアルなミュージアム現場の体験と学習を促せるよう東京国立博物館と協働しワークショップを開催した。

学内生：館務実習50日・レクチャー（オンライン）5日、計55日

任意参加ワークショップ1日（東京国立博物館 35名）

他大生：館務実習 5日

### ③収蔵作品調査

2020年度より開始した5ヵ年計画の2年目。作品の個別調査（開梱、収蔵位置確認、箱書きや作品への書き込み情報等の確認、作品撮影、採寸、状態確認）を行い、年間約1,000件の作品調査を完了した。

### ④収蔵作品データベース構築

美術館のホームページリニューアルにあわせて、データベースの「試験運用」として、美術館が過去に発行した展覧会図録（133件）のレコードを公開し、書籍仕様のほか、執筆者や在庫状況などの詳細情報もあわせて公開することで、研究者や学生に広く活用していただける環境を整えた。

収蔵作品については、「財産目録」を基礎情報として約3,700件のデータを流し込めるようExcelデータで情報整理・精査のための作業を行った。

### ⑤収蔵環境整備

作品管理エリアは定期的に温湿度点検を行い、計測結果を月ごとにまとめ、環境管理の専門家によるアドバイスをもとに、空調管理や環境整備を行った。

### ⑥教育普及活動

多摩市及び多摩センター地区文化施設と連携した展覧会関連事業やアウトリーチ（一部外部機関と共同）などでオンラインを活用した事業を展開することで、コロナ禍でも実現可能なイベント企画の実施方法で普及活動の拡充をはかった。

### ⑦生涯学習センター「あそびじゅつ」への会場提供

「美術館とあそび 分科会」（12月16日）、「描く素材にふれて、感じたときに、なにに見える？」（1月9日、10日）に会場を提供し合計116名の参加があった。

## ◆附属メディアセンター

### ①事務室

新たに、「Adobe 3D オンラインセミナー」を開催し、アドビ株式会社の3Dツール「Substance 3D」と3D業界の最新動向の紹介を行った。

企業によるモデリング・テクノロジーに関する最新技術のオンライン・レクチャーを開

催した。

各センターの利用状況、機材の貸し出し状況、講習会の開催等を教授会等に報告し、周知を行った。

#### ②情報センター

- ・学内ネットワーク環境の整備…別プロジェクトが併行しており抑制的に実施した。
- ・次期サーバ更新に関する準備…15年来の委託業者を切り替えた。
- ・WEBサーバ学外移行計画…漸次的に進行している。

#### ③映像センター

純粋な映像コンテンツ制作から、動画・写真・3DCG・VR・サウンドなどを内包した複合コンテンツにシフトしてきた。今後は制作環境もそれらに対応すべく構築し、特に新入生に対してメディアセンターの利用アナウンスを周知させていく。

#### ④写真センター

新たに導入したフルサイズミラーレスカメラシステムの貸出について、学生からの反応は概ね良好であり、2022年度以降も順次拡充していく。

講習会は施設利用資格取得講習を中心に、全体的に回数を増加させた。学生個々の興味に寄り添えるよう、技術講習については大部分を個別で行った。

施設については4月にカラープリントプロセッサの経年故障により、約2ヶ月間カラー暗室が使用できない状況になったので、リプレース等の検討を今後の課題とする。

#### ⑤工作センター

##### <八王子>

学年ごとの利用時間の区切りをなくし、全学的に1限～4限を利用時間としたことにより、工作センター職員の学生対応できる層が厚くなり、学生の利便性が高まった。

また、授業実習科目の担当教員との打ち合わせを密に進めたことにより、研究室と情報共有しながら、安全に運営することができた。工作センターの安全対策の要である見学会や講習会等は、年間507回に及び、学生の安全確保の重要な役割を果たした。

コロナ禍で安全性の高い工作機械導入のための情報収集や機械見本市等の見学等ができなかった。

##### <上野毛>

各研究室と連携をとり、安全に運営することができた。

空圧機器の改善で安定したエア供給が可能となり、作品制作がスムーズになった。

2D主体のNC工作機の学生利用の実証データを取り、研究室の要望も合わせて次年度以降の機種選定に活かすことができた。

#### ⑥CMTEL

館内展示収蔵品について、素材は4社追加、既存展示品は8点更新した。

主催のワークショップ・イベントを8テーマ開催し（計222名参加）、メディアショーケース並びに館内での展示を積極的に行った。

学生の作品制作における相談窓口としても利用者が増え、CMTELで所有する機材利用者も増加した。（計304名）

また、学内外へ向けた広報ポスターとパンフレットを発行した。

#### ⑦FabCAVE

3Dプリンターを初めて体験する学生へのレクチャー、授業課題や卒制への個別の相談対応や個人制作による個展の支援など、3Dプリントの出力・作成支援を行った。

⑧上野毛スタジオ

2週間に1回のペースで講習会を開催し多くの学生が参加した。  
順次必要な機材を揃え、スタジオと機材を整備した。

◆附属アートアーカイブセンター

①アートアーカイブセンターの運営体制の構築

- ・ 規程を改正し、所長及び所員を配置した。
- ・ 資料貸出しの内規を制定した。
- ・ 月1回の運営委員会だけでなく週1回小会議を開催することで、取り組むべきことの課題を教職員で共有し、業務の質を向上させた。
- ・ 資料代表者のほか資料ディレクターなど資料に関わるポジションを新たに設定した。

②収蔵庫の環境整備（IPM構築）

- ・ 事務室スタッフ自身による収蔵庫内の清掃及び温湿度管理を徹底した。
- ・ 資料の状態確認を行った上で、4階の燻蒸作業を行った。次年度に向けて5階収蔵庫内燻蒸作業の計画を立てた。

③各資料体の管理（収集、契約、保管、データベース、分類、展示等）

- ・ 和田誠展に1,000点以上の作品資料・画像貸出しを行った。また、瀧口修造文庫、勝見勝アーカイブ等からの資料・画像貸出しも行い、資料公開、活用に取り組んだ。
- ・ 20年以上保管されていた資料を活用すべく寄贈契約を締結した。
- ・ 代表者不在の資料体の整理に着手した。各資料体代表者と現状の課題を共有しサポート体制を整えた。
- ・ データベースが完成し、入力を開始した。

④活動内容及び研究成果の発信

- ・ 研究系機関と連携し多摩美術大学研究ポータルを制作、公開した。
- ・ シンポジウム内で、AACの取り組みを発信するコーナーを新設した。
- ・ 研究紀要3号を発行し、英語版1号の制作に着手した。
- ・ 研究会を立ち上げ学生に授業を提供した。
- ・ 見学会を開催し、教員や学生への認知度向上をはかった。

⑤アートテークギャラリーの管理運営

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえてギャラリー運営を行った。
- ・ 備品の点検、備品倉庫の整理を行い、在庫管理を徹底した。
- ・ 修繕については専門家に意見を求め、適正な修繕となるよう取り組んだ。
- ・ 企画団体と連携し情報発信を行った。

◆生涯学習センター

①本学の持つ潜在的な力・リソースを掘り起こし、社会・地域へアピールする場としての生涯学習事業を企画立案

コロナ禍の不安定な情勢で、開講歴のある教員を中心に組み立てた。

## ②こども講座における新たな連携プロジェクトの発掘

今後の連携プロジェクトに有効なツールとして「宅配便あそびじゅつ」の開発に努めた。TUBとの共催で東京ミッドタウンにおいて「あそびじゅつ」と展覧会を行った。世田谷区から「新・才能の芽を育てる体験学習」を引き続き受託し、「宅配便あそびじゅつ」に3.8倍の応募があった。

## ③上野毛・八王子キャンパスそれぞれの特色を生かした旗艦講座の検討

『〇〇世紀の芸術家列伝』は、中町ふれあいホールでの対面の他、オンデマンド受講者を別途募ることで、前年度比120%の参加を得た。

『こどもオープンアトリエ』は、上野毛・八王子両キャンパスで実施し、今後も持続可能な形式をつくることができた。

## ④広報への活用及び連携事業等への展開に活かすための活動記録のアーカイブ

生涯学習センター発足から現在までの活動及び理念をまとめた冊子の刊行に向け、編集方針の検討、基礎データの整理を行った。

## ⑤社会人の学び直しに対応した講座やプロジェクトの検討

全学的な方針について、次年度より目的を明確にした方向での事業展開を目指す。

### ◆芸術人類学研究所（IAA）

#### ①研究プロジェクトと連動した大学内外における活動の推進と教育活動

新型コロナウイルス拡大の影響から、現地調査や研究会などは制限がある中での実施となったが、オンライン開催等を活用し、「IAA開所15周年記念 公開シンポジウム『芸術人類学の新たな地平へ——〈地場〉からの報告』」（2021年7月／オンライン開催）、「第8回『土地と力』シンポジウム：旅と書物—時間と空間の隔たりを超えて」（2021年11月／オンライン開催）、関連プログラム「旅と書物—時間空間の隔たりを超えて」展（2021年11月／八王子図書館・アーケードギャラリー）を開催した。

「芸術人類学の新たな地平へ」シンポジウムは、新活動部門のひとつ「地場との交接」を起点とした4人の所員による自由なディスカッションを通じて、学生をはじめとした若い層にとって、広く未知なる美術への導きとなる企画となった。「土地と力」シンポジウムでは、「旅」を通じて、人類が空間や時間を超えて表現し続けてきたことをテーマにし、「フランス中世の写本挿絵とロマネスク彫刻」と「ジャワ島の憑依芸能」に関する基調報告と所員全員の討議を実施。また同時開催の「旅と書物」展では、シンポジウム基調報告に関連する内容を、写真、映像、資料などで紹介するとともに、各所員が「旅と書物」をテーマに選んだ書籍を展示したことが、シンポジウムにおけるより深い議論の創出に繋がった。またシンポジウム当日配信の動画については、開催後においてもYouTubeを利用した期間限定配信（2日間）を行った。

#### 【シンポジウム参加者数実績】

「芸術人類学の新たな地平へ」総視聴者数：349回（アーカイブ配信なし）

「旅と書物」再生回数：820回（2日間のアーカイブ配信含む）／総視聴者数：355名

#### ②プロジェクト成果の学内への還元

「土地と力」プロジェクト—全学開放シンポジウム開催

『Art Anthropology』第17号（2022年3月）発行

- ・ユーロ=アジアをつらぬく美の文明史ー【大学美術館「博物館実習RⅡ」】
- ・エンタグメント・デザインー【情報デザイン学科・「現代色彩論」】
- ・贈与と祝祭の哲学ー【芸術学科・「民俗芸術論」「アジア思想史」】
- ・来るべき美術ー【共通教育・「20世紀美術論」「現代美術ゼミ」】
- ・渚と森のフォークローアー【芸術学科・「芸術学Ⅲ」「映画の現在」】
- ・地場との交接ー【グラフィックデザイン学科、統合デザイン学科・東京ビエンナーレ2020/2021デザインプロジェクト・スチューデントトライアル《見なれぬ“東京の地図へ”》】
- ・行為の詩学ー【芸術学科・「芸術人類学」】

### ③科学研究費助成事業採択課題一覧

- ・「エルミタージュ美術館所蔵『黄金の鹿』の神話と造形表彰ー「生命再生の鹿角」の研究」  
(鶴岡真弓所長・基盤研究(C) [課題番号: 17K02324])
- ・「現代美術の触覚的体験を用いた平和学習のメソッド構築」  
(港千尋所員・基盤研究(B) [課題番号: 22H00630] \*2022年度新規採択)
- ・「エトルリアを基軸とした文化的連続性と研究領域の確立」  
(金沢百枝所員・挑戦的研究(萌芽) [課題番号: 21K18342])

## (2) 管理運営面の推進計画

### ◆総合企画部

#### 【企画課】

#### ①入学試験に関する市場調査並びに諸統計などの取集・分析

- ・2021年度入試結果データの分析を行った。
- ・高校進学指標ランク別分析を行った。
- ・環境デザイン学科進学データの分析・提案を行った。
- ・キャリアデザインセンター学生分析データの調査設計協力・提案を行った。
- ・IRのためのデータベース(過去データの入力他)を作成した。

#### ②学校経営に関する企画と提案

##### ●研究活動の推進に向けた対策の提案

文部科学省「大学等における価値創造人材育成拠点形成事業」へ選定され、再委託費として13,633,360円/年(次年度以降4年間1,200万円/年の予定)を獲得した。

##### ●地域の活性化・課題解決

- ・地域(八王子市、相模原市・町田市、世田谷区、多摩市)の大学コンソーシアムに参加した。
- ・台湾にて開催される学生デザイン展「YODEX」作品出展をオンラインで実施した。  
(ウェブサイト1,691,490ビュー/Facebook9,600フォロワー)
- ・リンレイと本学学生を対象にした公園トイレ2箇所のデザイン原画をコンペティション形式で募集・実施し、TUBで入賞者全員の原画作品展を実施した。

#### ③学生募集に関する企画と提案

- ・2022年度入試の志願者が総数で112.9%、実数で109.5%前年度比でアップした。

#### 【広報課】

#### ①広報メディアのクオリティアップ

- ・「TAMABI NEWS」を志願者獲得の視点を織り込み「東京2020NIPPONプログラム」、「持続可能な社会の実現」、「世界基準を超える」の3テーマで発行した。
- ・サブパンフレットを「AI時代を先取りする進路選択」へとタイトル変更してプリリニューアルした。
- ・学科紹介動画の作成、チャットボットの導入など、WEB内コンテンツを追加、充実させた。
- ・LINE、ツイッター、instagramなどへの投稿による情報発信を強化した。

## ②大学広報の強化

### ●志願者獲得イベントなどの対応

- ・オープンキャンパス八王子①：7月17日（土）、18日（日）に八王子キャンパスで実施
- ・オンラインオープンキャンパス：7月22日（木）特設サイトにて実施
- ・オープンキャンパス八王子②：9月19日（日）に八王子キャンパスで実施
- ・高校教員向け大学説明会：6月22日（火）に八王子キャンパスで実施
- ・進学相談会：全国12エリアに参加
- ・高校ガイダンス：高校個別のガイダンス、模擬授業に参加
- ・学校見学：団体見学と個人の学校見学に対応

### ●TUBによる情報発信

2021年4月のオープンから2回のプレス発表、18回の展示、12回のイベント、56回のオンラインイベントを実施。特にデザインハブ第94回企画展では以下の成果を上げた。

- ・Tama Design University（2021年12月1日～26日）  
来場者4,102名、Youtube視聴回数133,165回、ユーザー数42,808人、  
WEBサイト ユーザー数75,355人、ページビュー数338,649回

### ●アキバタマビ21

「いまだかつてあるゆらぎ」他8企画の展示を行った。

### ●TCLの運営と情報発信

- ・第5期36名、第6期31名が修了した。
- ・リスティング広告、DMを展開した。

### ●パブリシティ獲得にむけた情報発信の強化

- ・30本のプレスリリースを配信した。

## ◆総務部

### 【総務課】

#### ①法人運営環境の整備

- ・理事会、評議員会及び常勤理事会は支障なく運営できたが、意思決定サポート体制の整備には至らなかった。
- ・電子稟議・決済システムを導入した。
- ・必要な現行規程の改正は行ったが、点検はできなかった。

#### ②人材の確保及び人事制度の確立

- ・事務組織の見直しを段階的に進めているが、事前の検討・調整が不十分だった。

#### ③働きやすい職場環境の整備

- ・行動計画（次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法）期間の半分（2年）が終了し

たが、計画策定時より後退した目標（所定外労働時間や休暇取得率）もあった。改めて周知徹底し実現に努めたい。

- ・ワークライフバランスについては、専門職・アソシエイト職制度やリフレッシュ休暇制度の導入時など、適宜周知、理解に努めており、引続き推進していきたい。

#### ④危機管理体制の確立

- ・課題をまとめ対応を検討したものの、災害時マニュアルの見直し、学内周知には至らなかった。
- ・コロナ禍により学生参加の避難訓練は実施できなかった。

#### ⑤上野毛キャンパスの整備

- ・駒沢通り拡幅にかかる世田谷区との折衝については大きな進展はなかった。
- ・年度途中で耐震補強の必要性が明らかになり、授業運営等への支障を最小限とするよう調整を行った。
- ・コロナ対応に加えて耐震補強対応が必要となったが、施設・設備・備品について調整を行い円滑に対応できた。

### 【人事課】 ※2021年6月に総務課から分離発足

#### ①人材の確保及び人事制度の確立

- ・新卒及び経験者採用については、計画通りとはいかなかったものの、適宜求人を出して必要な人材確保に努めた。
- ・自己啓発制度については拡充により利用者が倍増したが、集合研修、業務関連研修の見直しには至らなかった。
- ・メンター・メンティ制度を導入し、6組取り組んだ。
- ・専門職・一般職（アソシエイト職）を設けた。総合職との違いを明確にしワークライフバランスの選択肢として浸透を図りたい。

#### ②働きやすい職場環境の整備

- ・「人事・福利厚生」検討プロジェクト及び「新卒職員採用」検討プロジェクトが実施され、提案、改善が行われた。

### 【庶務課】 ※2021年6月に八王子総務課から名称変更

#### ①施設・設備の改修整備

- ・GHPエアコン機器更新については、故障箇所を優先的に実施し更新は次年度とした。
- ・ファンコイルユニット更新については、工事期間等の兼ね合いからデザイン棟5Fのみとし、次年度実施とした。
- ・図書館外壁補修工事及び図書館間接照明LED化工事を実施した。

#### ②学生寮竣工後の対応

- ・設備管理会社について、当初連携が進まなかったが、討議検討を重ね連携が強化できた。
- ・運営委託会社、寮長・寮母との話し合いを継続的に行い対応できた。
- ・学生入寮に向けた準備・対応も滞りなく行えた。
- ・消防計画規定を消防署へ提出し、秋には消火訓練も実施した。

#### ③八王子キャンパス大規模修繕計画



- ・八王子総務課が、庶務課とキャンパス設計室に明確に分かれ、大規模修繕工事はキャンパス設計室が所管となりサポートの役割となったが支障なく実施できた。

#### ④キャンパス警備の強化

- ・警備業者を変更したが、業務内容の監督・指導は実施できた。
- ・キャンパス内入出構チェックについては、コロナ禍でのチェック体制を整え実施できた。また、車輛入構に関する対応も次年度に向けて体制を整えた。

#### ⑤業務の見直しと業務分担の修正

- ・業務分担の作成及び修正を行った。
- ・業務の見直しについては、業務経験者が少ないため、次年度に持ち越しとしたが、一部車輛入構申請については変更を加えシステムティックにした。

### 【情報推進課】

#### ①情報共有化に向けた学内体制の検討

- ・就職システムのCampusSquareへの統合は計画見直しを行い、統合を見送ることとした。
- ・Google Workspaceは安定的な運用に努めた。
- ・入試システムについては、即時バックアップできる体制を構築した。

### ◆財務部 ※2021年6月に総務部経理課から独立した部として発足

#### ①財務の継続的な安定と、収入の基盤強化

資産運用収入は2019年度比0.6%減でほぼ横ばいに留まったが、寄付金は、84%増と大きく増加し、ホームページへの寄付金システム導入も効果が上がっている。

#### ②予算制度のPDCAサイクルの確立

予算申請に対して、具体的な根拠を示しながら評価をしているが、制度としてPDCAサイクルの確立には至ってはならず、予算科目の追加も検討段階である。

#### ③大学の全体整備計画に係る財務シミュレーションによる資金計画

資金計画の変更にも柔軟に対応するシミュレーションを作成し、適正な範囲内での計画を提案できるようになった。

### ◆キャンパス設計室

#### ①上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携（5～7年以内）

- ・上野毛・八王子キャンパス再整備について、マスタースケジュールを策定し、必要な施設機能を分担配置し、検討を進めた。
- ・上野毛キャンパスの既存改修案について施設を確認する中で、本館の耐震性能不足が発覚し、急遽プレハブ建設を計画に組み入れ、マスタースケジュールの見直しを行った。
- ・直近～中期における必要施設を想定し様々なケースに対応できるよう検討を進めている。

#### ②八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行（5～10年）

- ・トラブルなく予定通り外壁修繕工事が完了した。（石彫、木彫、諸材料、図書館）
- ・2022年度は、彫刻棟の外壁修繕工事を予定しており調整を進めている。

#### ③共通施設の充実と利用しやすさの推進（3～5年以内）

- ・上野毛・八王子キャンパス整備と平行して検討を行っており、施設の検討では、共通施

設の充実を考慮して進めている。

- ・コロナ禍での食堂の混雑解消のため、両キャンパス中庭のテーブル用パラソルを選定し、庶務課と連携して設置。施設の利用しやすさを推進した。
- ・その他、工芸棟ギャラリー改装、版画常設展示壁、図書館棟照明のLED化など、共通・共有エリアの整備を行い、施設の利用しやすさの向上をはかった。

### Ⅲ. 令和3年度 予算執行状況および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はホームページの「多摩美術大学について」→「会計・事業報告」をご参照ください)

#### 1. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。  
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

##### 【資金収支計算総括表】

(収入の部)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,822,440	7,822,884	△444
手数料収入	216,410	217,004	△594
寄付金収入	7,000	14,869	△7,869
補助金収入	650,400	698,273	△47,873
資産売却収入	200,000	200,000	0
付随事業・収益事業収入	177,970	196,925	△18,955
受取利息・配当金収入	65,000	71,469	△6,469
雑収入	210,593	223,921	△13,328
前受金収入	3,367,150	3,787,457	△420,307
その他の収入	517,687	523,194	△5,507
資金収入調整勘定	△3,198,180	△3,260,549	62,369
当年度資金収入合計(A)	10,036,470	10,495,447	△458,977
前年度繰越支払資金	14,259,314	14,259,314	0
収入の部合計	24,295,784	24,754,761	△458,977

収容定員数を確保しているため、安定的な財政基盤を維持できている。

多摩美サポーター募金による恒常的の募集により予算を上回りました。また、前年度よりも寄付件数が増加しました。

私立大学経常費補助金5億2,705万円、うち特別補助1,914万円(成長力強化に貢献する質の高い教育1,360万円、大学院等の機能の高度化1,779万円)の交付がありました。昨年度より一般補助は5,828万円増額し、特別補助は1,097円減額しましたが、予算額を上回りました。

銀行債2億円の有価証券満期償還額です。

多摩美オーブ館オープンによる寮費等収入により補助活動収入が増加しました。多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム講座(TCL)による公開講座収入の増加、受託研究収入の増加により予算額を上回りました。

長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金から債券の新規購入による資産運用額を増額し、運用利回りを高めたことにより予算額を上回りました。

#### (支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,167,350	4,089,752	77,598
教育研究経費支出	2,511,199	2,224,521	286,678
管理経費支出	538,550	494,102	44,448
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	210,000	149,459	60,541
設備関係支出	379,800	248,245	131,555
資産運用支出	3,025,360	3,016,963	8,397
その他の支出	436,635	433,071	3,564
予備費	365,450	—	365,450
資金支出調整勘定	△432,925	△291,105	△141,820
当年度資金支出合計(B)	11,201,419	10,365,008	836,411
翌年度繰越支払資金	13,094,365	14,389,753	△1,295,388
支出の部合計	24,295,784	24,754,761	△458,977

教職員数の増加により、人件費が前年度より増額し、予算額に対しても予算額を上回りました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により大学入構禁止期間があり、教育活動の一部が制限されていました。そのため今年度は光熱水費、営繕費、学生管理費、支払報酬、業務委託費等が昨年度決算額よりも増加しました。また、消耗品、奨学金、通信費などの減少もあり、予算額を下回りました。

八王子キャンパス…防災設備更新工事、絵画棟受変電機器更新工事、デザイン棟5階空調設備(FCU)更新工事。  
東京ミッドタウン(TUB)…5階・壁面造作工事。  
上野毛キャンパス…2号館201・207・208教室コンセント増設工事、2号館3F自由デッサン室LED化工事。

減価償却引当特定資産を10億円増額(合計113億円)しました。多摩美サポーター募金により第3号基本金引当特定資産を増額しました。有価証券を新規に2億円購入しました。

上記により翌年度繰越支払資金が予算対比では増加、前年度決算額対比では1億3,044万円増加しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△1,164,949	130,439	△1,295,388
------------------	------------	---------	------------

## 2. 事業活動収支計算

事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

### 【事業活動収支計算総括表】

(単位:千円)

	科目	予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,822,440	7,822,885	△445
	手数料	216,410	217,004	△594
	寄付金	7,000	12,481	△5,481
	経常費等補助金	650,400	691,536	△41,136
	付随事業収入	177,970	196,925	△18,955
	雑収入	210,243	223,285	△13,042
	教育活動収入計	9,084,463	9,164,116	△79,653
	人件費	4,182,250	4,096,071	86,179
	教育研究経費	3,620,699	3,333,689	287,010
	(うち減価償却額)	1,109,500	1,109,142	358
	管理経費	752,600	706,109	46,491
	(うち減価償却額)	215,500	213,448	2,052
徴収不能額	0	0	0	
教育活動支出計	8,555,549	8,135,869	419,680	
教育活動収支差額	528,914	1,028,247	△499,333	
教育活動外収支	科目	予算	決算	差異
	受取利息・配当金	65,000	71,469	△6,469
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	65,000	71,469	△6,469
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	65,000	71,469	△6,469	
教育活動外収支差額	593,914	1,099,716	△505,802	
特別収支	科目	予算	決算	差異
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	44,650	37,105	7,545
	特別収入計	44,650	37,105	7,545
	資産処分差額	5,000	726	4,274
	その他の特別支出	1,450	1,441	9
	特別支出計	6,450	2,167	4,283
特別収支差額	38,200	34,938	3,262	
予備費	367,400		367,400	
基本金組入前当年度収支差額比率(注1)	2.9%	12.2%		
基本金組入前当年度収支差額	264,714	1,134,654	△869,940	
基本金組入額合計	△1,635,820	△1,717,267	81,447	
当年度収支差額	△1,371,106	△582,613	△788,493	
前年度繰越収支差額	△2,587,176	△2,587,176	0	
翌年度繰越収支差額	△3,958,282	△3,169,789	△788,493	
事業活動収入計	9,194,113	9,272,690	△78,577	
事業活動支出計	8,929,399	8,138,036	791,363	

退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。

職員人件費、退職給与引当金は前年度実績より増加しましたが、予算に対しては、予算額より下回りました。

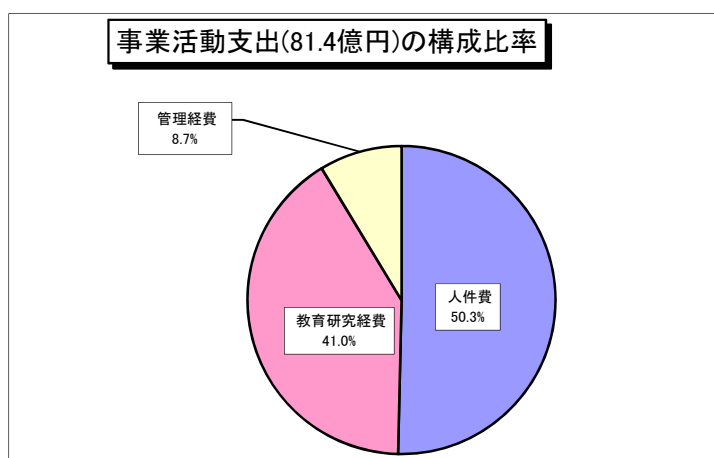
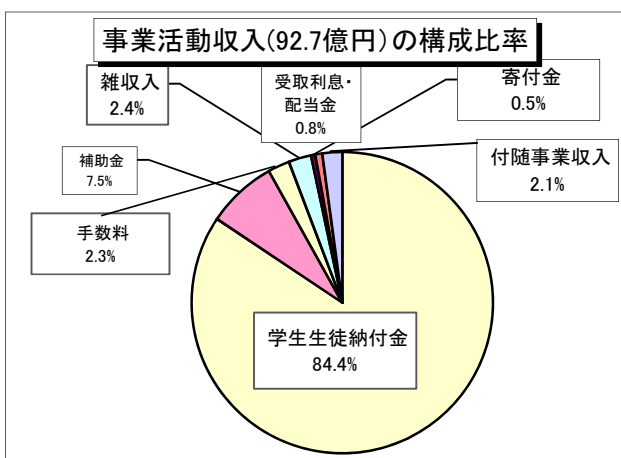
前年度実績比では、光熱水費、学生管理費、業務委託費等が増加しましたが、減価償却額、奨学費等の減少により、全体額は予算を下回りました。

安齊重男写真作品現物寄付423点2,245万円、科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品の寄贈や施設設備に対する補助金等がありました。

図書の汚損・紛失・除籍による処分差額です。

上記の結果、事業活動収入は92億7,269万円となり予算を上回りました。また、基本金組入前当年度収支差額比率は12.2%になりました。これは今後の継続的な施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は△5億8,261万円となり、翌年度繰越収支差額は△31億6,979万円となりました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れや借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、長期的な改善を計り、今後も事業活動収支の均衡がとれた運営を目指します。

注1 基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100



### 3. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します。  
(資産の部) (単位:千円)

科 目		R3年度末	R2年度末	増減
資 産	固定資産	59,497,452	57,888,187	1,609,265
	有形固定資産	36,737,289	37,625,443	△888,154
	特定資産	20,265,217	17,766,146	2,499,071
	その他の固定資産	2,494,946	2,496,598	△1,652
	流動資産	14,729,122	14,531,515	197,607
合計		74,226,574	72,419,702	1,806,872

#### (負債の部・純資産の部)

科 目		R3年度末	R2年度末	増減
負 債	固定負債	2,008,179	2,001,862	6,317
	流動負債	4,346,586	3,680,685	665,901
	合計	6,354,765	5,682,547	672,218
純 資 産	基本金	71,041,598	69,324,331	1,717,267
	第1号基本金	63,665,122	63,448,900	216,222
	第2号基本金	6,519,625	5,019,625	1,500,000
	第3号基本金	376,851	375,806	1,045
	第4号基本金	480,000	480,000	0
	繰越収支差額	△3,169,789	△2,587,176	△582,613
	合計	67,871,809	66,737,155	1,134,654
負債および純資産の部合計		74,226,574	72,419,702	1,806,872

#### (参考)

減価償却額の累計額	26,908,621	25,867,040	1,041,581
基本金未組入額	30,844	103,778	△72,934

貸借対照表についてH29年度～H31年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科 目		H31年度末	H30年度末	H29年度末
資 産	固定資産	57,021,808	55,273,964	55,200,679
	有形固定資産	35,794,484	34,975,920	35,928,236
	特定資産	18,750,763	17,726,921	16,763,874
	その他の固定資産	2,476,561	2,571,123	2,508,569
	流動資産	15,474,734	15,917,433	14,818,478
合計		72,496,542	71,191,397	70,019,157

#### (負債の部・純資産の部)

科 目		H31年度末	H30年度末	H29年度末
負 債	固定負債	1,978,841	1,949,124	1,979,570
	流動負債	4,577,271	4,419,327	4,531,487
	計	6,556,112	6,368,451	6,511,057
純 資 産	基本金	68,550,000	66,908,159	66,907,626
	第1号基本金	60,675,362	59,035,922	59,035,922
	第2号基本金	7,019,625	7,019,624	7,019,624
	第3号基本金	375,013	372,613	372,080
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	繰越収支差額	△2,609,570	△2,085,213	△3,399,526
	合計	65,940,430	64,822,946	63,508,100
負債および純資産の部合計		72,496,542	71,191,397	70,019,157

#### (参考)

減価償却額の累計額	24,958,867	24,038,755	22,929,313
基本金未組入額	135,690	39,431	0

建 物 … 八王子キャンパス防災設備更新工事、絵画北棟受変電機器更新工事、デザイン棟5階空調設備(FCU)更新工事 他。  
教育研究用機器備品…PC(CG2730-Z)82台(統合)、  
プリンター(EpsonSurecolor SC-P5050G)37台(GD)プリンター(XeroxDocuColor7171P)2台(統合) 他。  
美術参考品… 安齋重男写真作品 423点 他。  
その他… 図書、構築物、管理用機器備品、美術参考資料の取得。

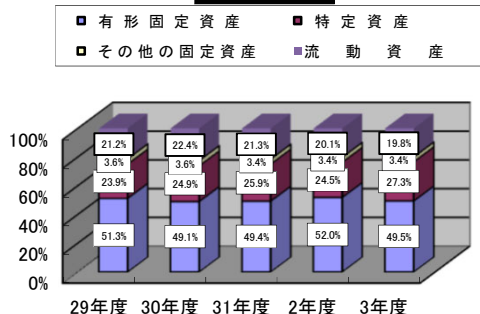
「第2号基本金引当特定資産」残高は15億増額し65億1,962万円となり、「第3号基本金引当特定資産」は寄付による基本金増より105万円の増加。「減価償却引当特定資産」残高は10億円増額し113億円。「退職給与引当特定資産」残高は退職給与引当金が増加したことより632万円増の20億818万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学金基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し960万円と寄付金及び利付国庫債券による運用益131万円との差額829万円の減少。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め59億3,464万円(2022/3月末現在の取得価額に対する評価はプラス1億954万円)で昨年度比30億円の増加。

現金預金残高は前年比1億3,044万円増加し143億8,975万円、学生寮(オーブ館)寮費等の未収入金が5,895万円増加し2億6,437万円、前払金は856万円増加し7,409万円。

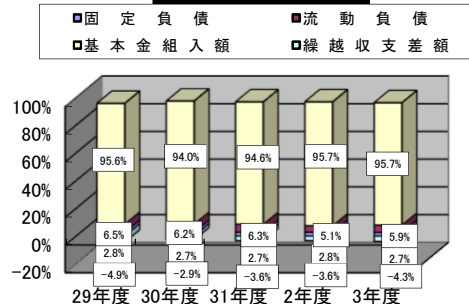
長期借入金残高は平成30年度から0円となり、退職給与引当金残高は316名分で632万円増加の20億817万円。

第1号基本金＝令和3年度の組入額(資産取得)4億2,502万円と前年度未組入れ高の組入れ分1億378万円の合計から当年度除却資産分の基本金組入額2億8,174万円と未払金による未組入れ分30億844万円を除いた2億1,622万円を組入れました。

資産構成比率



負債、純資産構成比率



#### 4. 財務比率<平成29年度から令和3年度>

※芸術系(20法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】令和2年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	44.5%	45.7%	45.0%	43.6%	44.4%	52.9%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	51.2%	52.9%	50.8%	50.5%	52.4%	65.7%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	4.6%	4.7%	6.2%	4.4%	7.6%	10.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
基本金組入後収支差額比率	$\frac{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}{\text{事業活動支出}}$	▼	86.0%	85.2%	107.3%	99.7%	107.7%	112.4%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	78.8%	77.6%	78.7%	79.9%	80.2%	88.2%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	9.3%	8.9%	9.0%	7.8%	8.6%	11.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	6.7%	6.2%	5.7%	6.7%	7.5%	10.7%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	0.7%	0.1%	18.6%	8.6%	18.5%	11.6%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0%	100.0%	99.8%	99.8%	100.0%	97.4%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	36.6%	34.7%	35.8%	43.2%	36.1%	37.7%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	△	86.9%	86.4%	88.5%	86.4%	84.7%	80.5%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	-	19.2%	17.7%	16.7%	14.4%	16.3%	13.9%

\*「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計 「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計 「運用資産」=現金預金+特定資産+有価証券

#### 【比率分析の見方】

人件費比率=経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。

人件費依存率=学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。

管理経費比率=経常収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。

借入金等利息比率=低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値を下回った。

事業活動支出比率=人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。

基本金組入後収支差額比率=「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。

固定資産構成比率=総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。

総負債比率=低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。

補助金比率=私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、研究設備整備費等補助金などの積極的な取り組みにより増加。

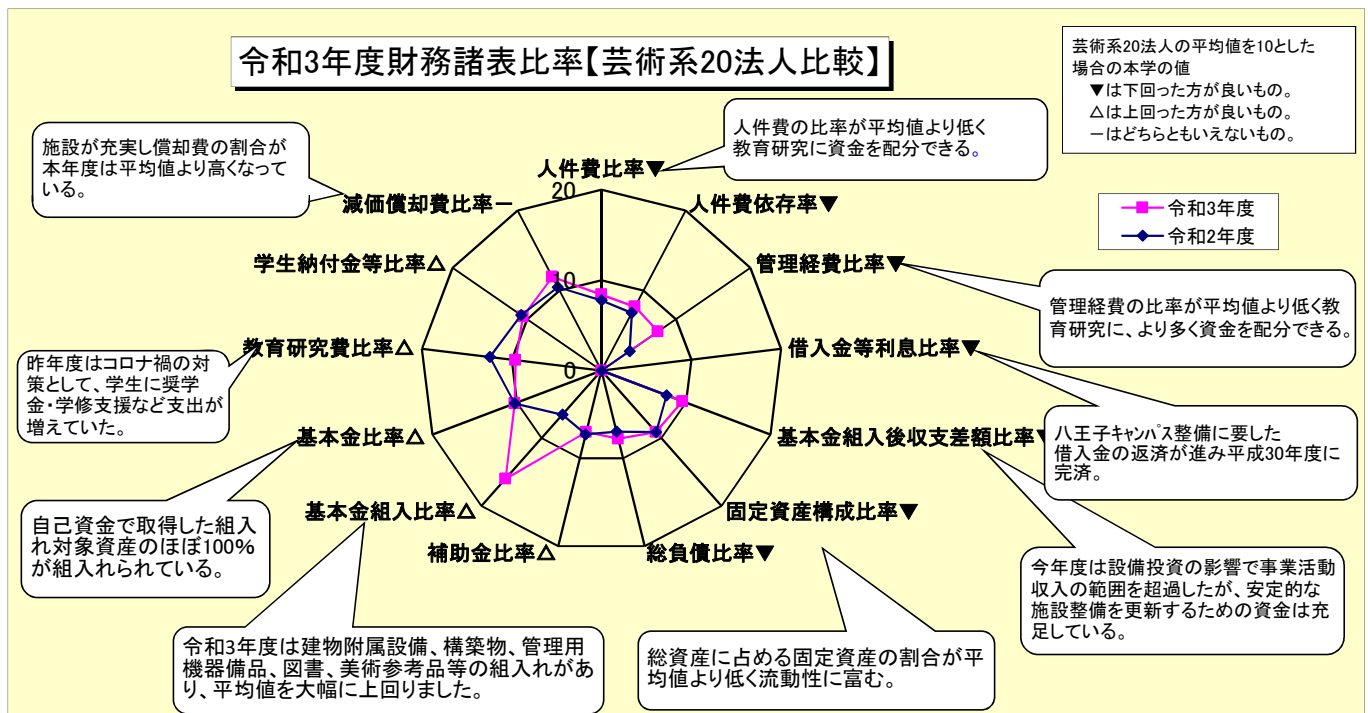
基本金組入比率=高い方が良いとされる。平成28年度は新築建物はなく、土地取得は2号基本金からの振替えの為、組入比率は減少。

基本金比率=基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。

教育研究費経費比率=経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。

学生納付金等比率=経常収入の中で最もウエトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。

減価償却額比率=将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。



#### 【まとめ】

令和3年度末における本学の財政状況は、学費収入を柱とした安定した収入と、適正な予算配分と管理による支出を徹底することで、しっかりとした経営基盤を維持しています。この良好な状態は各財務比率でも示されています。

本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の収支差額に不足はなく、今後も安定的な教育運営資金が確保されています。

## 財 産 目 録

令和4年 3月31日

I 資産総額	74,226,573,814 円
内 基本財産	36,787,344,182 円
運用財産	37,439,229,632 円
II 負債総額	6,354,764,901 円
III 正味財産	67,871,808,913 円

科 目	金 額	
<b>資 産</b>		
一 基本財産	( 36,787,344,182 円 )	
1 土地(団地)	198,947.99 m <sup>2</sup>	14,275,478,964 円
内 訳	(1)上野毛キャンパス校地	16,118.66 m <sup>2</sup> 10,600,000 円
	(2)八王子校キャンパス校地	152,900.38 m <sup>2</sup> 11,850,984,307 円
	(3)美術館敷地	1,603.00 m <sup>2</sup> 920,000,000 円
	(4)学生寮敷地	11,640.35 m <sup>2</sup> 1,407,402,657 円
	(5)山中純林苑敷地	11,929.00 m <sup>2</sup> 80,620,000 円
	(6)奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m <sup>2</sup> 5,172,000 円
	(7)野尻湖敷地	3,287.00 m <sup>2</sup> 700,000 円
2 建 物	116,956.70 m <sup>2</sup>	16,377,036,577 円
内 訳	(1)校 舎	96,309.83 m <sup>2</sup> 10,294,151,920 円
	(2)図 書 館	6,738.99 m <sup>2</sup> 1,161,909,439 円
	(3)講堂・体育館	3,895.29 m <sup>2</sup> 381,952,906 円
	(4)学 生 会 館	2,073.99 m <sup>2</sup> 292,985,110 円
	(5)寄 宿 舎	6,147.73 m <sup>2</sup> 3,548,438,441 円
	(6)そ の 他	1,790.87 m <sup>2</sup> 697,598,761 円
3 構 築 物	370 件	1,963,284,516 円
4 教育研究用機器備品	12,315 点	954,458,914 円
5 管理用機器備品	556 点	194,154,708 円
6 図 書	232,411 冊	1,515,467,566 円
7 美術参考品	8,685 点	1,384,964,511 円
8 美術参考資料	380 種	71,177,747 円
9 車 両	8 台	1,265,144 円
10 ソフトウェア	14 件	47,782,313 円
11 電話加入権	38 台	2,273,222 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		( 37,439,229,632 円 )
1 現 金 預 金		14,389,753,411 円
2 第2号基本金引当特定資産		6,519,624,477 円
3 第3号基本金引当特定資産		376,851,339 円
4 減価償却引当特定資産		11,300,000,000 円
5 退職給与引当特定資産		2,008,179,611 円
6 多摩美術大学創立80周年記念奨学基金 引当特定資産		60,561,660 円
7 有 価 証 券		2,434,204,340 円
内 訳	(1)利付国債	634,204,340 円
	(2)財投機関債	100,000,000 円
	(3)銀行債	1,000,000,000 円
	(4)事業債	700,000,000 円
8 差 入 保 証 金		10,685,920 円
9 未 収 入 金		264,368,492 円
10 前 払 金		74,093,209 円
11 立 替 金		907,173 円
<b>資 産 総 額</b>		74,226,573,814 円
<b>負 債</b>		
一 固 定 負 債		( 2,008,179,611 円 )
1 退職給与引当金		2,008,179,611 円
二 流 動 負 債		( 4,346,585,290 円 )
1 未 払 金		238,179,931 円
2 前 受 金		3,787,476,800 円
3 預 り 金		320,928,559 円
<b>負 債 総 額</b>		6,354,764,901 円
<b>正味財産(資産総額－負債総額)</b>		67,871,808,913 円